

## 平成 17 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 17 年 1 月 27 日

上場会社名 井村屋製菓株式会社

（コード番号：2209 東証・名証第2部）

（URL <http://www.imuraya.co.jp/>）

問合せ先 代表者役職・氏名 代表取締役社長 浅田 剛夫

責任者役職・氏名 執行役員財務部長 竹田 節郎 TEL : (059) 234 - 2147

### 1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有  
(内容)

引当金の計上基準等は一部簡便的な方法を採用しております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無  
連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

### 2. 平成 17 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況（平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 12 月 31 日）

#### (1) 経営成績（連結）の進捗状況 (百万円未満切捨)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第3四半期	26,170	2.8	630	347.3	698	373.3	365	-
16年3月期第3四半期	25,460	-	141	-	147	-	200	-
(参考)16年3月期	32,877	1.3	48	94.6	63	92.9	375	-

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第3四半期	14.42	-
16年3月期第3四半期	7.90	-
(参考)16年3月期	14.91	-

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

#### [ 経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等 ]

当第3四半期中（平成16年10月1日から平成16年12月31日）の消費環境は、景況感の停滞基調に加え、台風や新潟中越地方を中心とする地震、異常暖冬の影響もあり厳しい状況にありました。

このような状況の中であって、当連結グループの10月～12月は年間を通して売上・利益ともに最もウエイトの高い期間であり、販売活動を積極的に行うとともに、継続して業務構造改革に取り組みました。

売上面におきましては、菓子では商品規格・パッケージの見直しを行いました「カステラ」が大手小売業との取り組みもあり大きく伸ばいたしました。食品は、「お赤飯の素」が引続き好評を得て第3四半期での売上高が前年同期比で70%増となり「ゆであずき」も堅調に推移しましたが「缶詰のドリンク」(飲料)は他社との競合激化もあって苦戦いたしました。デイリーチルドは健康志向の中でブームである「豆乳」商品の倍増ペースが続き、販売エリア拡大の仕組みづくりを行った「チルドまん」も伸ばいたしました。加温の肉まん・あんまんは「ていねいさ」をキャッチフレーズにひと手間かけた手作り感を特徴として素材の美味しさを活かした商品に仕上げましたが、暖冬と高額商品の競争激化のなか伸び悩みました。冷菓は「あずきバー類」が引続き好調に推移し、「焼いもアイス」や「たい焼アイス」等の最中類を中心とした秋冬の商品も好評を得、天候要因も相俟って伸ばいたしました。フードサービス事業は、「アンナミラズ」が9

月に八景島店を退店したこともあり減収となりました。今後もダイナミックなスクラップ&ビルドを進め、1月の立川店退店を決定する一方、高輪店を改装し新しいコンセプトを掲げた店舗に変革を行います。新業態ブランド「ジュヴォー」は継続してプロヴァンスの特徴を生かした店舗づくりを進めるとともに、新商品の開発や新規販売ルートとして首都圏デパートを中心とした催事販売への取組みも開始し、収益構造の改革に強く取組んでおります。調味料事業は、天然系調味料の主たる得意先である即席麺業界が暖冬の影響もあって全体として勢いのない市場状況にあり、厳しい状況で推移しました。一方、グループ会社間でのコラボレーション商品として開発したVDD（真空ドラムドライヤー）による「豆乳粉末」は着実に販路を拡大し、中国との取組みでは中国国内市場の拡大と健康機能食材の共同開発を進めるなど、新規商品への取組みも積極的に行っております。

以上の結果、当連結グループの第3四半期まで（平成16年4月1日から平成16年12月31日）の連結売上高は26,170百万円で前年同期比2.8%増となりました。

利益面におきましては、原油価格の高騰による包装資材への影響はありましたが、業務構造改革の売り方の変革による販売効率の向上や「水ようかん」・「シロップ」の夏物商品の返品への激減による原価の低減、「ISCM」の構築に加えて「LOSS 50 CUT」の経費節減への取組み効果が表れ、販売費・一般管理費が減少いたしました。

以上の結果、当連結グループの第3四半期まで（平成16年4月1日から平成16年12月31日）の連結経常利益は井村屋製菓(株)単体の改善（前年同期比5億68百万円増）もあり6億98百万円（前年同期比373.3%増）連結当期純利益は3億65百万円（前年同期当期純損失2億00百万円）となりました。

1月～3月の第4四半期は、春先対策商品（新商品）の拡売、春夏物商品の市場拡大活動を強力に推進するとともにロス・無駄の排除をさらに押進め原価の低減・経費削減に取組んでまいります。業務構造改革は新年度に向けて第二フェーズへの取組みを新たにスタートいたします。なお、「選択と集中」の基本方針のもと、グループ事業の効率化、合理化推進のため連結子会社イムラ(株)の経営によるゴルフ練習場の3月31日での閉鎖とそれに伴う低層賃貸事業への変革、同じく連結子会社井村屋乳業(株)の牛乳事業からの撤退と6月1日付同社との合併に向けての準備も合わせて進めてまいります。

## (2)財政状態（連結）の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	25,190	11,658	46.3	460.66
16年3月期第3四半期	25,500	11,689	45.8	461.57
(参考)16年3月期	21,411	11,508	53.7	454.33

### [ 財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等 ]

第3四半期末における総資産が期末と比較して増加するのは、年間を通じ第3四半期が当社の最盛時期にあたり、受取手形及び売掛金、たな卸資産等残高が増加することによっております。

## 3.平成17年3月期の連結業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

当初予想（平成16年5月14日公表）と変更はありません。

業績予想につきましては、決算日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上

1.(要約)四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前第3四半期末 (平成15.12.31)		当第3四半期末 (平成16.12.31)		増減 金額	(参考) 前連結会計年度末 (平成16.3.31)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
<b>(資産の部)</b>							
<b>流動資産</b>							
現金及び預金	767		822		55	1,028	
受取手形及び売掛金	8,580		8,096		484	4,933	
たな卸資産	2,090		2,481		391	1,879	
繰延税金資産	156		399		243	291	
その他の流動資産	275		256		19	220	
貸倒引当金	2		3		1	1	
流動資産合計	11,867	46.5	12,051	47.8	184	8,351	39.0
<b>固定資産</b>							
有形固定資産	9,884		10,009		125	9,800	
無形固定資産	30		26		4	30	
投資その他の資産	4,105		3,569		536	3,692	
貸倒引当金	387		466		79	462	
固定資産合計	13,632	53.5	13,139	52.2	493	13,060	61.0
資産合計	25,500	100.0	25,190	100.0	310	21,411	100.0
<b>(負債の部)</b>							
<b>流動負債</b>							
支払手形及び買掛金	4,447		5,324		877	3,288	
短期借入金	3,705		1,908		1,797	1,383	
賞与引当金	283		268		15	400	
未払金	2,191		2,611		420	1,828	
その他の流動負債	598		851		253	413	
流動負債合計	11,226	44.0	10,965	43.5	261	7,315	34.2
<b>固定負債</b>							
長期借入金	652		635		17	651	
退職給付引当金	640		747		107	675	
役員退職慰労引当金	175		117		58	186	
再評価に係る繰延税金負債	977		977		-	977	
その他の固定負債	5		6		1	1	
固定負債合計	2,450	9.6	2,485	9.9	35	2,491	11.6
負債合計	13,677	53.6	13,450	53.4	227	9,806	45.8
<b>(少数株主持分)</b>							
少数株主持分	133	0.5	81	0.3	52	96	0.4
<b>(資本の部)</b>							
資本金	2,253	8.9	2,253	8.9	-	2,253	10.5
資本剰余金	2,295	9.0	2,295	9.1	-	2,295	10.7
利益剰余金	5,509	21.6	5,493	21.8	16	5,332	24.9
土地再評価差額金	1,460	5.7	1,460	5.8	-	1,460	6.8
その他有価証券評価差額金	312	1.2	305	1.2	7	311	1.5
為替換算調整勘定	5	0.0	5	0.0	0	7	0.0
自己株式	135	0.5	144	0.5	9	137	0.6
資本合計	11,689	45.9	11,658	46.3	31	11,508	53.8
負債、少数株主持分及び資本合計	25,500	100.0	25,190	100.0	310	21,411	100.0

2.(要約)四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	前第3四半期 〔自平成15.4.1〕 〔至平成15.12.31〕		当第3四半期 〔自平成16.4.1〕 〔至平成16.12.31〕		増減 金 額	(参考) 前連結会計年度 〔自平成15.4.1〕 〔至平成16.3.31〕	
	金 額	百分比	金 額	百分比		金 額	百分比
売上高	25,460	100.0	26,170	100.0	710	32,877	100.0
売上原価	17,010	66.8	17,345	66.3	335	22,009	66.9
売上総利益	8,450	33.2	8,824	33.7	374	10,868	33.1
販売費及び一般管理費	8,309	32.6	8,194	31.3	115	10,819	32.9
営業利益	141	0.6	630	2.4	489	48	0.2
営業外収益	97	0.4	128	0.5	31	134	0.4
受取利息	1		1		0	1	
受取配当金	15		17		2	16	
持分法による投資利益	-		7		7	-	
その他の収益	80		102		22	116	
営業外費用	91	0.4	61	0.2	30	119	0.4
支払利息	34		23		11	43	
持分法による投資損失	0		-		0	2	
その他の費用	56		37		19	73	
経常利益	147	0.6	698	2.7	551	63	0.2
特別利益	34	0.1	62	0.2	28	289	0.9
固定資産売却益	4		-		4	4	
投資有価証券売却益	29		20		9	265	
長期貸倒引当金戻入	-		41		41	-	
その他の利益	0		0		0	20	
特別損失	405	1.6	121	0.5	284	686	2.1
固定資産除却損	22		75		53	53	
長期貸倒引当金繰入	375		-		375	427	
その他の損失	6		45		39	205	
税金等調整前四半期(当期) 純利益又は税金等調整前四 半期(当期)純損失( )	223	0.9	639	2.4	862	333	1.0
税金費用	26	0.1	276	1.1	302	75	0.2
少数株主利益又は少数株 主損失( )	3	0.0	1	0.0	4	33	0.1
四半期(当期)純利益又は 四半期(当期)純損失 ( )	200	0.8	365	1.3	565	375	1.1